
それでも私は死にたい

レンタン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

それでも私は死にたい

【Nコード】

N4843Y

【作者名】

レンタン

【あらすじ】

これはある二人の男女が真剣に自殺と向き合った物語。
日本では毎年3万人も超える人々が自殺するという。

自殺する奴なんて、カスだ。したいなら勝手に死ねばいい。
今までそう思っていた人もいるのではないだろうか？
だが、よく考えてみてほしい。この世の中、
自殺してもいい人なんて一人もない。
人にはそれぞれ生きる意味、役割があって、

目の前には歩むべき人生の道が続いている。
その途中でどんなに絶望を感じても決して
死んでもいいことはないし、死ぬべきではない。

人は皆誰しも生く先々で不幸に見舞われる。

だけど、同時に希望の光がその先にあることだってある。

今絶望を感じていて、自分の力で希望を見出せなくても、
誰かが力を貸してくれて、再び新たな光を見つけれれる。
だから死んではいけない、たとえ何があっても……。

はじめに

自殺、人はなぜ命を自らの手で終わらせようとするのだろうか。よく自殺の動機でこう言う人がいる。人生に絶望を感じたからだとか……。しかし本当に人が自殺する理由を、そんな短い言葉だけで片付けられるのだろうか。僕は到底信じることができない。

日本では毎年3万人以上もの人々が自殺しているという。そのほとんどが“人生に絶望を感じたから”、それが動機ならばどうにかして希望の光を照らせればいい。しかし実際にそれだけで多くの自殺志願者が自殺を踏み止まるとは思えない。もしそうならもっと自殺者が少なくなってもいいはずである。

だから現実とは違うのだろう、確かに結論としては“人生に絶望を感じたから”それが答えかもしれない。しかし背景にはその結論に至る非常に複雑に絡み合った大きな経緯がある。そのほとんどを解決できたとき、人はきっと自殺を思い止まる。だけどそれはとてつもなく困難で、現実的にかなり厳しいに違いない。

ただここで今一つだけ確実に言えることがある、人は絶対に自殺をしてはいけない。たとえ自分のために生きることができなくなったとしても、人には生きているそれだけで大きな価値がある。その生を喜び、望んでいる人が必ずいるのだから……。

はじまり

私は美浜望、27歳。名前は望だけど、今私の人生には夢も希望もない。ただ絶望で満ち溢れている。

1週間前まで付き合っていた恋人、実は他に女がいて、突然その人と結婚することにしたと。それなのに私にあったのはたった1本の電話。ほとんど一方的な内容で、まとめると結婚することになった、だから別れてくれと。言い返す暇もなく切られて見事にふられた。あとで何度かけ直してもつながらなかった。

4日前まで勤めていた会社、何か大きなミスなんてした覚えはない。おそらくは会社の業績不振による整理解雇、所謂リストラに巻き込まれて肩を叩かれ職を失った。

3日前まで元気で仲良く暮らしていた両親。それはあまりにも急で始めはとても信じられなかった。近所のスーパーへの買い物の帰り、交通事故に遭って大型トラックに轢かれて亡くなったと。

すでに遠い親戚以外の身内は亡くなっていて、昨日までの葬儀が終わると実家に残ったのは私ただ一人。リビングのソファのテーブル、置かれていた写真立てに写る父と母の笑顔。悲しみが余計に増幅されて、断崖絶壁とてつもなく深い谷底へと私を突き落とした。

2011年4月30日の土曜日、だから私は本当に来た、高波が押し寄せて尖った大きな岩が突き出た断崖絶壁の海の上。ここから飛び降りればほぼ間違いなく死ぬ、まず助かることはないだろう。そして私は目を閉じてゆっくりと歩を進めた……。

僕の名前は新山雪博、25歳。どこにでもいるごく普通の会社員。

仕事はたまにミスはするけど大きな失敗もなく、順調といいだろう。上司や同僚、後輩との関係も良好だし、高校生のときからお互いよく相談に乗っている親友もいる。両親は最近老けてきたけどまだまだ元気で仲良く暮らしているし、一人いる4つ下の大学に通っている弟もこの前、卒業後の就職先が決まったと明るい声で電話をくれた。今の人生に不満があるとすれば、就職して以来ずっと彼女がいなかっただろう。

だからこんな僕の人生、まさかこれから自殺について本気で考えないといけなくなるとは夢も思っていなかった。それも自分のことではない、何度か会ったことはある相手だったけど、名前しか知らないほとんど赤の他人の自殺について。

ドライブの途中、たまたま立ち寄った高波が押し寄せて尖った大きな岩が突き出た断崖絶壁の海の上。僕はその上に一人の女性を目撃した、一瞬は同じように水平線の遠く眺めているのかと思った。だけど女性が急にゆっくりと崖の先に歩を進め始めたとき、僕は気が付いた、まさに今彼女は飛び降り自殺を図ろうとしていると。

主な登場人物

美浜望 27歳 身長162? 体重49?

この物語の主人公兼ヒロイン。最近立て続けに不幸と不運に遭遇し、人生に絶望を感じて自殺を図ろうとしているところを一人の男性に引き止められる。運命的な出会いに心を動かされ付き合いはじめる。しかし相変わらず精神状態は不安定なまま。それでも思い悩みながらも、自分の人生に少しずつ希望を見出していく。

新山雪博 25歳 身長176? 体重63?

彼女（美浜望）が4日前まで勤めていた会社で今も働いているサラリーマン。土曜日の昼間一人でドライブしていたところ、途中立ち寄った断崖絶壁の海の上で、飛び込むとしていた彼女を発見して助ける。運命的な出会いを感じて付き合い始めるのだが、精神状態が不安定なままの彼女に振り回される。それでも彼女の自殺について本気で考え、なんとか希望の光を照らそうとする。

小林友哉 25歳 身長178? 体重68?

新山と同期入社で同じ部署に所属する親友。一緒に仕事をすることが度々あり、息が合う非常に仲のいい関係。お互いに悩み事があるとそれぞれ親身に相談に乗るようにしている。今回も彼（新山雪博）が大橋さんと付き合いはじめたこと知り、上手くいくようにアドバイスをしていく。また、自分は望の友人であった大橋さんと実は付き合っていて、最近結婚を考えている。

大橋志穂 27歳 身長165? 体重50?

望が会社に勤めていたときは最も仲の良かった同じ会社の友人。彼女がリストラされてからも何度か連絡は取っていたが、日に日に返信が遅くなり最後には何も返って来なくなっていたことに大きな

不安を感じていた。その後、彼（新山雪博）から彼女と付き合いはじめたことを聞き、二人の関係が上手くいくようにそれぞれの相談に乗るようになる。また、彼の親友である小林君と付き合い合っている。

佐藤水奈 24歳 身長155? 体重45?

彼（新山雪博）の元カノ。といっても付き合っていたのはもう高校時代の話で、今は同じ会社に勤めている友人の一人。お互いに恋人関係に戻るつもりはないものの、度々顔を合わせている所謂腐れ縁のような関係。彼に新しい彼女ができたことが気になっているが、自分も付き合っている相手がいるので嫉妬している訳ではない。ただ悪気はないのだが余計なことをすることがあり、それが二人に勘違いを抱かせることになる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4843y/>

それでも私は死にたい

2011年11月17日21時43分発行